

PHASER Series

製品ラインナップ

リニアモータ単軸ロボット

4mのロングストロークでも危険速度の制約なし!
長距離搬送で圧倒的なパフォーマンスを発揮する
「PHASER」シリーズ!



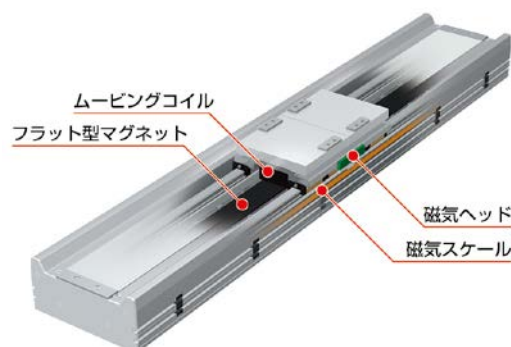
危険速度の制限がなくロングストロークの高速搬送が可能

MF タイプ

コア付きフラットモータでハイパワー・ロングストローク

P.220

最大ストローク：4050mm
 最高速度：2500mm/s
 繰り返し位置決め精度：±5μm
 最大可搬質量：7～160kg

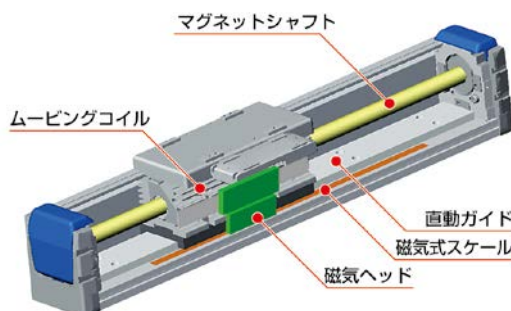


MR タイプ

シャフトモータ駆動で軽量・コンパクト・低コギング

P.238

最大ストローク：1050mm
 最高速度：2500mm/s
 繰り返し位置決め精度：±5μm
 最大可搬質量：5kg



タイプ	サイズ(mm) ¹	型式	キャリア	最大可搬質量(kg)	最高速度(mm/sec)	ストローク(mm)	ページ	
MFタイプ フラット型コア付き リニアモータ仕様	W85 × H80	MF7	シングル	10(7) ²	2500	100～4000	P.220	
		MF7D	ダブル			100～3800		
	W100 × H80	MF15	シングル	30(15) ²		100～4000	P.226	
		MF15D	ダブル			100～3800		
	W150 × H80	MF20	シングル	40(20) ²		150～4050	P.230	
		MF20D	ダブル			150～3850		
		MF30	シングル	60(30) ²		100～4000		P.233
		MF30D	ダブル			150～3750		
W210 × H100	MF75	シングル	160(75) ²	1000～4000	P.236			
	MF75D	ダブル		680～3680				
MRタイプ シャフト型 リニアモータ仕様	W60 × H90	MR12	シングル	5	50～1050	P.238		
		MR12D	ダブル		50～1050			

1. サイズはおおよその本体断面最大外形です。

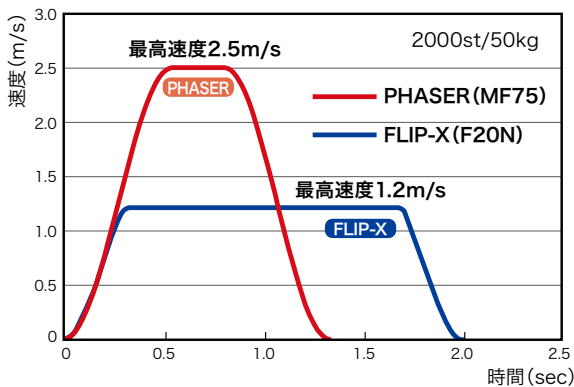
2. 最高速度で使用する場合は()内の質量となります。

POINT 1

最高速度 2.5m/sec 危険速度なし

リニアモータ単軸ロボットの最大の魅力は、ボールネジのような危険速度がないことです。長い距離の搬送でも、最高速度が低下しません。加えて、最大ストロークもMRタイプで1050mm、MFタイプで4000mmまで標準設定。特に、長距離搬送で大幅なサイクルタイム向上を果たせます。

リニア単軸 PHASER と単軸ロボット FLIP-X の移動時間比較



POINT 2

重量物の搬送に最適。最大可搬質量 160kg

フラットマグネットを採用した MF タイプの最大可搬質量は 160kg です。大型液晶パネルなどの重量物の搬送を高速・高精度で行うことができます。(MF タイプの一部の可搬質量範囲においては、最高速度を制限する場合があります。詳しくは各機種仕様ページをご参照ください。)

POINT 3

ストロークの有効活用

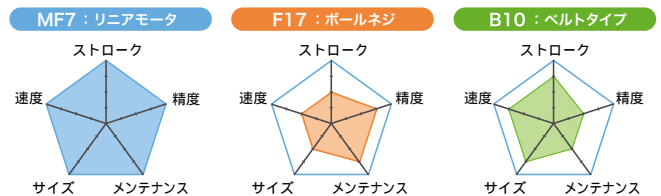
リニアモータ単軸ロボットは、駆動部であるコイルをテーブル内部に内蔵しているため、デッドスペースがなくなりストロークに生かれます。また、本体は左右対称なので、レイアウトの自由度が高まります。



POINT 4

主要部品内製化のため低コスト

磁気スケールを自社開発・内製化。その他の主要パーツも内製化することにより、大幅なコストダウンを実現しました。もはや、リニアは特別な機構でなく、適材適所でボールネジと同列に選択する時代です。特に、軽量のワークを高速で長距離搬送する場合、リニアモータタイプの方がコストダウン可能なケースもあります。



単軸ロボット各機種の比較

機種名	本体価格 ¹	最高速度 (mm/sec)	可搬質量 (kg)	繰り返し位置決め精度 (μm)	最大ストローク (mm)	断面最大外形 ² (mm)
MF7-1500	[Blue Bar]	2500	10(7) ³	±5	4000	W85×H80
F17-40-1450	[Orange Bar]	720 ⁴	40	±10	1450	W168×H100
B10-1450	[Green Bar]	1850	10	±40	2550	W100×H81

1: 上記ストロークの場合の比較です。 2: ケーブルペア含まず。 3: 2500mm/s の場合は 7kg です(10kg 搬送時: 2100mm/s)。 4: ストローク 1450mm の場合の危険速度を考慮した値です。

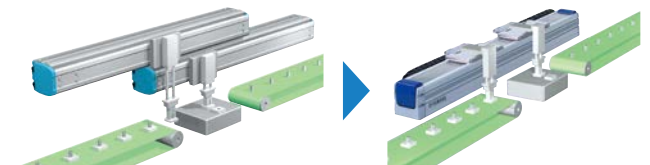
POINT 5

ダブルキャリアに標準対応

ひとつのロボット上に二つのキャリアを動作させるダブルキャリア仕様に標準対応しています。2 台の単軸ロボットを使用する場合と比較し、省スペース、コストダウン、タクトアップと高い効果を発揮します。さらに、軸合わせが不要な上、ツールも共用できるなどセットアップ時間も短縮可能です。(RCX シリーズコントローラを使用した場合、衝突防止機能が使用できます。)

ボールネジ単軸を 2 台使用したレイアウト

ダブルキャリアによる省スペース化



POINT 6

自社開発リニアスケール

ヤマハの卓越した磁気信号検出技術により、リニアスケールを独自開発しました。



磁気式で耐環境性が高い

汚れに強い磁気式なので、グリスや切削液が多少かかるような環境でも動作可能です。

セミアプソ

リニアスケールに記録された信号を読み取ることで現在位置を取得します。電源投入後、運転前に大きく原点復帰させる必要がありません(信号を読み取る際に、スライダが最大 76mm 程度動作します)。

コストダウン

自社開発、内製化により大幅なコストダウンを実現しました。

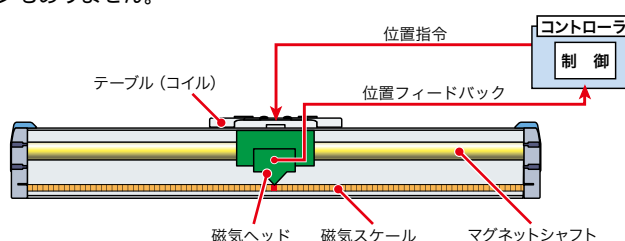
高い分解能 1 μ m

磁気スケールに記録された磁気信号を検出・内挿処理することで、分解能 1 μ m という高精度を達成しています。

繰り返し位置決め精度 $\pm 5 \mu$ m

常時テーブル位置をフィードバックするフルクローズド制御なので、安定した高い精度を出すことができます。

また、ボールネジやタイミングベルトのような機械的なバックラッシュもありません。



POINT 7

静寂性・長寿命

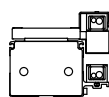
ボールネジタイプのロボットと異なり、摺動部や回転部分がないため、圧倒的に静かです。また、コイルとマグネットは非接触のため磨耗することがなく、長期間にわたって使用することができます。

POINT 9

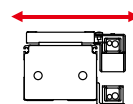
ケーブルベアが飛び出ないフラットタイプ

MF7 では本体の小型化にあたり、ケーブルベアがテーブル上面とフラットになる「フラットタイプ」を標準でご用意しました。ツールやワークの形状や取付方法に合わせてお選びください。

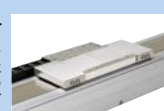
標準タイプ



フラットタイプ



フラットタイプはケーブルベアがテーブル上面から飛び出ないため、大きなツールの取付けが容易です。



マルチキャリアの対応可能

ひとつのロボット上に3つ以上のキャリアを動作させる「マルチキャリア」にも対応可能です。タクトアップと省スペース化に高い効果を発揮し、アプリケーションの幅が格段に広がります。



デュアルドライブ対応

2軸間を同期駆動させるデュアルドライブにより、ワイドエリアでの高速搬送、重量物搬送が可能です。トルクサポート制御、両軸位置決め制御など、ロボットの連結剛性に応じた最適な制御方式をご提案いたします。

